

潤徳小学校研究便り

第3号



令和6年11月21日
日野市立潤徳小学校
研究主任 金谷 聡士
広報 海老澤 妙子
荒木 秋華

潤徳小学校では[第4次日野市学校教育基本構想](#)を受け、「子供たちがつくる」教育活動の具現化を図っています。日々の授業の中でも「子供たちが当事者として参画し、意見し、対話する」場面をつくり出すことができるよう、今年度は以下の研究テーマのもと、授業改善を推進していきます。

「子供たちがつくる学校（学習）」プロジェクトの推進 ～学び合いを通して探究する児童の育成（複線型）～

[昨年度までの研究](#)で積み重ねてきた研究成果を生かしながら、さらなる授業改善を目指していきます。

授業の様子



① 計画・準備

自分たちで学習課題を立て、クロームブックの振り返りシートに記入しました。この振り返りシートには、単元計画が提示されており、見通しをもって学習に取り組むことができます。本時のめあては、「戦争中の人々の暮らしを調べよう」です。

このめあてを達成するために、担任から本時のキーワードを提示しました。

- ・隣組
- ・招集令状
- ・どんぐり拾い

子供たちは、このキーワードを元に自学タイムに取り組みます。



② 自学タイム

自学タイムでは、調べ方やまとめ方、誰と学習するのかを自由に選んで学習します。教科書を見て学習し、ノートにまとめている児童もいれば、クロームブックで調べて、ドキュメントやスライドにまとめている人もいました。



③ まとめる

調べたことを全体で共有します。キーワードについて調べたことを発表して、全体共有を図ります。

児童①「隣組は、お互いに助け合う仕組みです。」

児童②「隣組は、お互いを監視し合う仕組みでもあります。」

人々の様子や子供たちの生活について、調べたことを発表し合い、全体共有を図ります。また、対話のラリーを通して、時代背景も含めた学習理解を深めます。

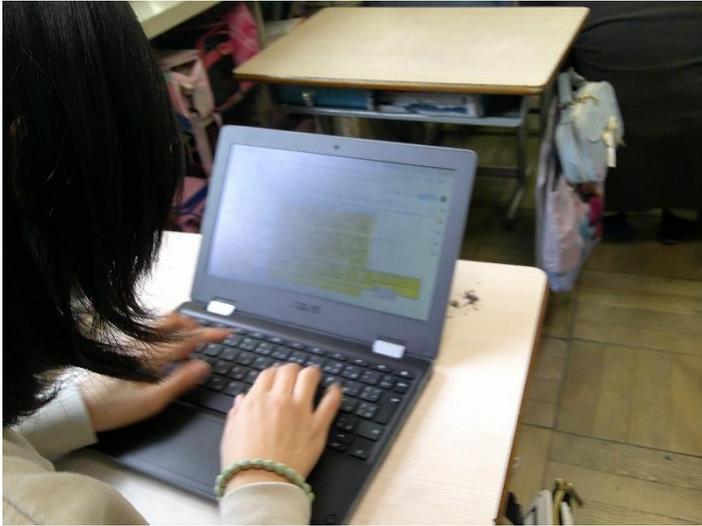
児童①「小学校でも訓練をして、教科書にも戦争のことが書いてありました。」

児童②「どんぐりを集めて、武器や燃料、お酒、家畜のエサなどに使われました。」

教員「どんぐりを拾う意味ってあったのかな？」

児童③「お金のために必要だったのかな。」





④ 振り返り・テスト

子供たちと話し合いながら、まとめの文章を考えます。その後、振り返りシートに、今日の学習の振り返りを書きます。振り返りを書くポイントが示されており、子供たちはそれを確認しながら振り返りを書いていました。また、振り返りシートは、毎回の授業の振り返りが見返せるようになっており、知識の積み重ねができる仕組みになっています。

研究協議会の様子

授業後は、帝京大学 教授 福島 健介様を講師としてお招きし、研究協議会が行われました。協議会では、以下のような成果と課題が出ました。

成果

- 学習課題に興味をもって活動していた。第一次のオリエンテーションが効果的だったことが伺えた（単元の目標を子供たちと立てたことや、学習計画を第一次で把握していたこと）。
- スプレッドシートに課題・学習計画・学んだこと・振り返りを記録することで主体的に課題に向かうための手だてとなっていた。自分の学習の足跡も見ることができ、学びの成果を児童が実感することができる。
- 複数で調べ学習をしているグループは、調べることを分担したり友達の疑問に対して「この本に載っていたよ。」と教えたりしていて、複数で学習する良さが出ていた。

課題

- 複線型の難しさ。各自キーワードを調べて、部分的な理解である点はできるが、全体で共有しながら線をつなげていくことの難しさを感じた。
- 児童の発言の根拠はどこにあるのかを伝えてもいいのかなと感じた。何で調べたのか、何に載っていたのか、はっきりとした事実を全体で確認してもよかったのではないかな。

また、福島先生からは、このような評価・指導をいただきました。

- 社会科で身に付けるのは、社会的な事象をつながげながら、多角的に考えそれをもとに議論する力。
- 現代は、SNSの発展で自分の気に入るような言論しか入ってこないようになっている。だからこそ、社会科で身に付ける「社会的事象の意味を多角的に考え議論する力」が大切である。
- 「寛容性」とは、道徳心ではない。社会科でこそ身に付けられる力である。多角的に社会を見る力を社会科で養うからこそ、多様な見方ができるようになるのである。
- 今回の授業では、「どのような生活だったのか」について調べ、共有することで、戦争中の人々の暮らしについて知識を身に付けることができた。
- グループの中ではそれなりに学びを進めることができていた。しかし、他のグループのことは見ることができなかった。全体の中で、戦争中の人々の生活に関してイメージを作っていくことができなかった。自分たちのタイミングで個別に交流する時間・空間を作ることが大切。友達との個別の議論が大切。
- 孤学化してしまう児童をどうするか。今回は、キーワードを3つ設定していたが、ゴールを同じにしなくてもよい。みんなが同じ知識を共有する必要はない。複数のゴールを準備をする。
- 1時間で課題を1つにしなくてもよい。1つの単元で2つの課題でも充分である。
- スプレッドシートがとてもよかった。学習ポートフォリオとして活用できる。どの教科でも活用するとよい。
- 交流を発表会にしてはいけない。
- 先生が必死にチョーク&トークでやる授業と、子供が自由に学びを進める複線型授業においては、少なくとも社会科においては学力が変わらない。
- 桃山学院大学の自己調整学習チェックリストを子供向けに作り直し振り返りのスプレッドシートに組み込むとよいかもしれない。

